

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)
同連絡先	
上場取引所	株式会社名古屋証券取引所 市場2部 (コード6655)
公告方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告のホームページアドレス	http://www.toyo-elec.co.jp/

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内



最新の製品情報やIR情報などを分かりやすく掲載しています。

<http://www.toyo-elec.co.jp/>

東洋電機

検索



お問合せ先

東洋電機株式会社

〒486-8585 愛知県春日井市味美町2-156
TEL.0568-31-4191 FAX.0568-31-8096

この報告書は植物油インキを使用しております



TOYO ELECTRIC CORPORATION



電子の夢を創る

東洋電機株式会社

証券コード：6655

第76期 報告書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

目次

トップインタビュー

創業70周年を機に
さらなる高みを目指そう p1

クローズアップ

東洋電機 創業70周年の歩み p4

セグメント別概況 p5 連結決算概要 p7

社員インタビュー p9 トピックス p9

会社概要／株式状況 p10

70th ANNIVERSARY

東洋電機株式会社 創業70周年



創業70周年を機に

おかげさまで東洋電機は、本年9月に創業から70周年という節目の年を迎えることとなりました。これもひとえに株主の皆様のご支援と諸先輩方の努力の賜物とあらためて感謝を申しあげる次第です。

いまを生きる私たちは、先人たちの努力に報いるべく、更なる挑戦の心を奮い起こさなければなりません。皆様の変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長

松尾 昇光

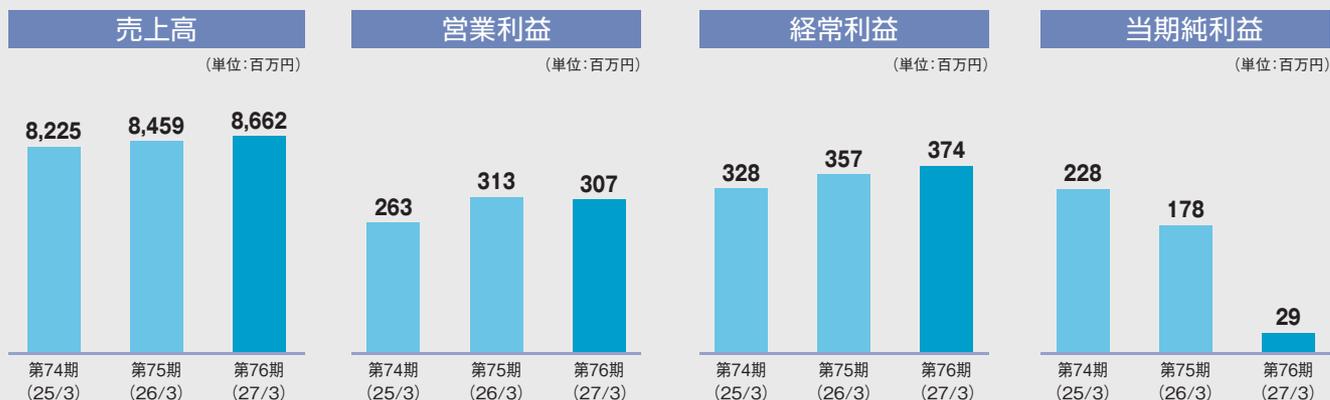
Q 東洋電機のこの1年はどのようなものでしたか。

A 景況感は一進一退が続いています。企業収益の回復に伴い企業の設備投資に新たな動きは見られたものの、円安による原材料価格の高騰などを背景に、受注環境は力強さに欠ける展開となりました。当社は全社をあげて受

注の拡大に努めるとともに、引き続き原価改善、業務効率化に努めた結果、売上高は前年実績を上回ることができました。

なお、当社および国内連結子会社3社が加入する厚生年金基金を1年後に解散することとなり、それに関連して約2億3千万円の特別損失を計上することとなりました。ご理解をたまわりたいと思います。

連結決算ハイライト



さらなる高みを目指そう

Q 主なセグメントの取り組みはいかがでしたか。

A 国内制御装置関連事業は、部門間でややばらつきが見られました。エンジニアリング部門では採算性を重視した受注活動を展開したことから、配電盤は減少したものの、鉄道関連向け監視制御装置が増加しました。機器部門については、表示器の需要が再生可能エネルギーの買取価格の見直しなどにより低迷したものの、エレベータセンサ需要の回復や空間光伝送装置分野の伸びが業績を牽引しました。変圧器部門については、データセンター向け受配電用乾式変圧器などが伸長しました。引き続き、地域防災関連の変圧器も堅調に推移しています。

海外制御装置関連事業は、アジア市場を中心にエレベータセンサの需要は拡大したものの、中国における受配電盤事業の黒字化は道半ばとなっています。

樹脂関連事業は、前年の道路交通安全資材分野からの撤退により売上高は減少いたしました。

Q 海外市場開拓部と国内市場開拓部の動きは順調ですか。

A 海外市場開拓部は、中国市場において日系企業を含む中国国内の販売を後押しするため、子会社南京華洋電気有限公司の営業サポートに全力で当たっています。今後、中国子会社の役割は海外市場に向けた生産拠点から中国国内に向けた生産・販売拠点になる可能性が高まっています。

国内市場開拓部は、既存事業と新製品「マジックピー」などとの営業融合を急いでいます。大手国内メーカーの工場に生産工程の監視装置として活用が検討されています。作業の効率アップを図る工程の可視化が期待されています。

日本放送協会（NHK）と共同で開発した「水中可視光通信装置」は、試作機が納入され試験運用も無事終了しました。このニュースが伝わったのか、海外からもオファーが寄せられています。将来性が期待できる未来型のシーズになりそうな予感もしています。なお、営業におけるマーケティング

1株当たり当期純利益

(単位:円)



1株当たり純資産額(BPS)

(単位:円)



株主資本利益率(ROE)/総資産経常利益率(ROA)

(単位:%)



設備投資額/減価償却費

(単位:百万円)



トップインタビュー

グ力を強化するため、経験者2名を経営企画本部長付とし、営業開拓に向けた新しい動きを始めています。

Q タイ子会社が稼働しました。目論み通りの動きでしょうか。

A タイ王国に新設した子会社Thai Toyo Electric Co.,Ltd.は、創業から2~3年は赤字を覚悟してきましたが、タイ国内に加えてASEAN向けのエレベータセンサが比較的順調に伸びており、1年前倒して黒字化する可能性もあると期待しています。

今後は製造設備の導入も視野に入れ、子会社内の体制整備を急いでいます。将来的にはアジア市場を視野に、エレベータセンサに加えて工場の自動化装置などの製造・販売も手掛けていけないかと、期待しています。

Q いよいよ創業70周年です。抱負と決意をお聞かせください。

A 当社は、終戦直後の昭和20年に創業しました。本年9月で創業70周年を迎えます。また、2年後には設立70周年を迎えます。これらの節目の年を形だけのお祝い場に終わらせるのではなく、もう一段上を目指す飛躍の機会ととらえ、新しい動きをさらに加速したいと考えています。

当社は平成9年に名証二部に上場してすでに20年近くが経過しようとしています。現状に安住するのではなく、近い将来の通過点として東証を目指せないかと考えています。金融市場の指定替えは当社だけで決められるものではなく、当然ながら厳しい審査基準も待ち受けています。そうした基準をいかにクリアするかも大きな課題となっています。

そうした新しい動きの1つとして、この6月開催の株主総会で会社法の改正に伴う「監査等委員会設置会社」への移行を決めました。監査等委員である取締役3名で構成する「監



査等委員会」を設置し、取締役の仕事ぶりを監督するものですが、企業の透明性を高め、コーポレートガバナンス（企業統治）の体制の更なる充実を狙いとしています。

なお、当社は創業70周年を迎えるにあたり、株主に感謝の意を表するため、平成27年3月期の期末配当については、1株当たり2円の記念配当を実施することとしました。これにより平成27年3月期の1株当たり配当は普通配当4円に記念配当2円を加えた6円となります。すでに実施した中間配当の4円を加えると年間配当金額は1株当たり10円となります。

当社は創業70周年を「第2の創業」と位置づけ、さらに事業の持続的かつ健全な発展を目指してまいります。引き続き株主の皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

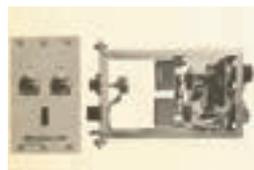
東洋電機 創業70周年の歩み

東洋電機は、おかげさまで本年9月に創業70周年を迎えます。創業以来、時代の変化に適切に対応しながら、FA業界向け制御機器メーカーとして、これまで蓄積してきた総合エレクトロニクス技術を活用し、常に新しい技術・製品・システム・サービスを提供してまいりました。

今後も、独自の視点で世の中に貢献することを追求し、当社らしい製品・サービスを提供し続けることで、持続的な成長を目指してまいります。



電気マッチ



● 昭和20年 9月	創業者松尾昇三氏により創業、電気マッチ・電熱機器製作販売を開始
● 昭和22年 7月	兵庫県尼崎市に配電用柱上変圧器の修理を主業として(株)東洋電機工作所を設立
● 昭和24年12月	工場を名古屋市西区に建築し、配電盤・制御盤・変圧器の製作・販売を新規に開始
● 昭和35年10月	生産増強のため、愛知県春日井市に春日井工場を建設し、配電盤・制御盤・変圧器の生産拠点を移転
● 昭和38年 7月	初めての自社開発製品となる半導体応用電力調整器「パラコン」を開発し、販売を開始
● 昭和44年11月	制御回路を無接点化した論理素子および発光ダイオードを応用した光電スイッチ「マジックアイ」を業界に先駆けて開発し、販売を開始
● 昭和45年 1月	商号を東洋電機株式会社に変更
● 昭和49年 9月	マイクロプロセッサを搭載したマイクロコンピュータを開発し、販売を開始
● 昭和56年12月	自社開発製品「トロイダル変圧器」を開発し、販売を開始
● 平成元年 2月	愛知県春日井市の春日井工業団地に神屋工場を建設
● 平成 3年10月	東洋機械(株)・東洋電子(株)・東洋変圧器(株)・東洋電設(株)を吸収合併
● 平成 9年 1月	名古屋証券取引所市場第二部に上場
● 平成10年 3月	変圧器事業部が乾式絶縁変圧器に対して欧州安全規格「EN60742」を取得
● 平成10年 4月	全事業部がISO9001認証を取得
● 平成11年 4月	エンジニアリング事業部が社団法人 配電盤工業会の優良工場認定を取得
● 平成14年 4月	ティーエムシー(株)、東洋電機ファシリティーサービス(株)を分社設立
● 平成16年 7月	当社、ティーエムシー(株)、東洋電機ファシリティーサービス(株)の全工場において、環境マネジメント「ISO14001」認証を取得
● 平成16年10月	中華人民共和国南京市に子会社「南京華洋電気有限公司」を設立
● 平成18年 1月	「愛知ブランド企業」認定を取得
● 平成24年 2月	ティーエムシー(株)の板金部門を分社し東洋板金製造(株)を設立
● 平成25年 2月	タイ王国バンコク都にThai Toyo Electric Co.,Ltd.を設立
● 平成26年 8月	新春日井工場竣工(本社事務所移転)



春日井工場全景



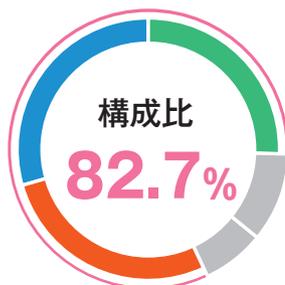
セグメント別概況

(平成27年3月期)

I. 国内制御装置関連事業

売上高 **7,165** 百万円
前期比 1.5%増

国内制御装置関連事業は、当社グループの中核事業として、日本国内を中心に事業展開しております。当事業は3部門から構成されており、その内エンジニアリング部門の売上高は減少したものの、機器部門の売上高が伸長したことにより、売上高は7,165百万円(前期比1.5%増)となりました。



内 訳



エンジニアリング部門



機器部門

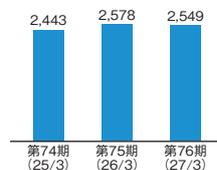


変圧器部門

エンジニアリング部門 売上高 **2,549** 百万円 前期比 1.1%減

エンジニアリング部門の事業は、業種業界ごとに異なる制御システムを提供しております。当事業の内、監視制御装置分野や搬送制御装置分野は増加したものの、印刷制御装置分野や配電盤分野が減少したことにより、売上高は2,549百万円(前期比1.1%減)となりました。

売上高推移 (単位:百万円)



鉄道関連製品「無人駅高声電話機」

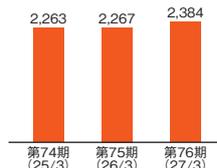
主な主要製品

- オンデマンドフォーム印刷機電装品
- インテリジェント多機能リレー(IPR)
- 省配線型搬送コントローラ(MRC)
- 宛名紙印刷搭載機

機器部門 売上高 **2,384** 百万円 前期比 5.1%増

機器部門の事業は、光技術を応用した様々な産業設備用機器を自社開発し、自社製品として提供しております。当事業の内、表示器分野は減少したものの、センサ分野や空間光伝送装置分野が増加したことにより、売上高は2,384百万円(前期比5.1%増)となりました。

売上高推移 (単位:百万円)



空間光伝送装置

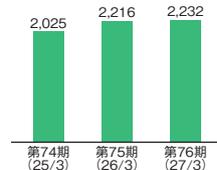
主な主要製品

- 空間光伝送装置
- エレベータ・エスカレータ関連機器
- 交流電力調整器
- 情報表示器

変圧器部門 売上高 **2,232** 百万円 前期比 0.7%増

変圧器部門の事業は、当社が設立以来営んでおり、受配電用変圧器から機械設備用変圧器などを提供しております。当事業は、データセンターなどのIT関連の需要が伸長したものの受配電関連の需要が減少したことにより、売上高は2,232百万円(前期比0.7%増)となりました。

売上高推移 (単位:百万円)



乾式変圧器 TKHⅢシリーズ

主な主要製品

- 乾式変圧器
- 耐雷変圧器
- モールド変圧器
- 始動リアクトル

Ⅱ. 海外制御装置関連事業

売上高 **889** 百万円
前期比 26.1%増

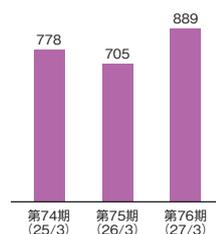


海外制御装置関連事業は、当社グループの海外企業2社が事業を展開しており、中国南京市にある南京華洋電気有限公司は、中国国内向け盤関連製品の製造販売や、中国国内やタイ王国などに向けたエレベータ関連センサの製造販売を行っております。またタイ王国にあるThai Toyo Electric Co.,Ltd.は、南京華洋電気有限公司から輸入したエレベータ関連センサの検査販売を行っております。

当事業は、日系企業向け制御盤が増加しエレベータセンサがほぼ横ばいとなったことにより、売上高は889百万円（前期比26.1%増）となりました。

なお、当事業と国内制御装置関連事業における機器部門とは、日本向けエレベータセンサなどの製品群において進料加工生産を行っております。

売上高推移 (単位:百万円)



主な主要製品

- 盤関連製品
(南京華洋電気有限公司のみ)
高圧受配電盤
コントロールセンサ
PLC応用制御盤



C型コントロールセンサ

- エレベータ関連製品
(南京華洋電気有限公司と
Thai Toyo Electric Co., Ltd.)
マルチビームセンサ
かご位置確認用センサ



エレベータセンサ
「かご位置確認用センサ」

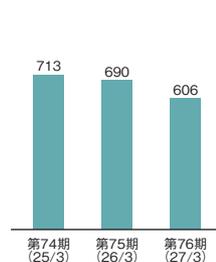
Ⅲ. 樹脂関連事業

売上高 **606** 百万円
前期比 12.2%減



樹脂関連事業は、当社グループの東洋樹脂(株)が展開している樹脂リサイクル事業です。当事業は、前年の道路交通安全資材分野からの撤退により、売上高は606百万円（前期比12.2%減）となりました。

売上高推移 (単位:百万円)



主な主要製品

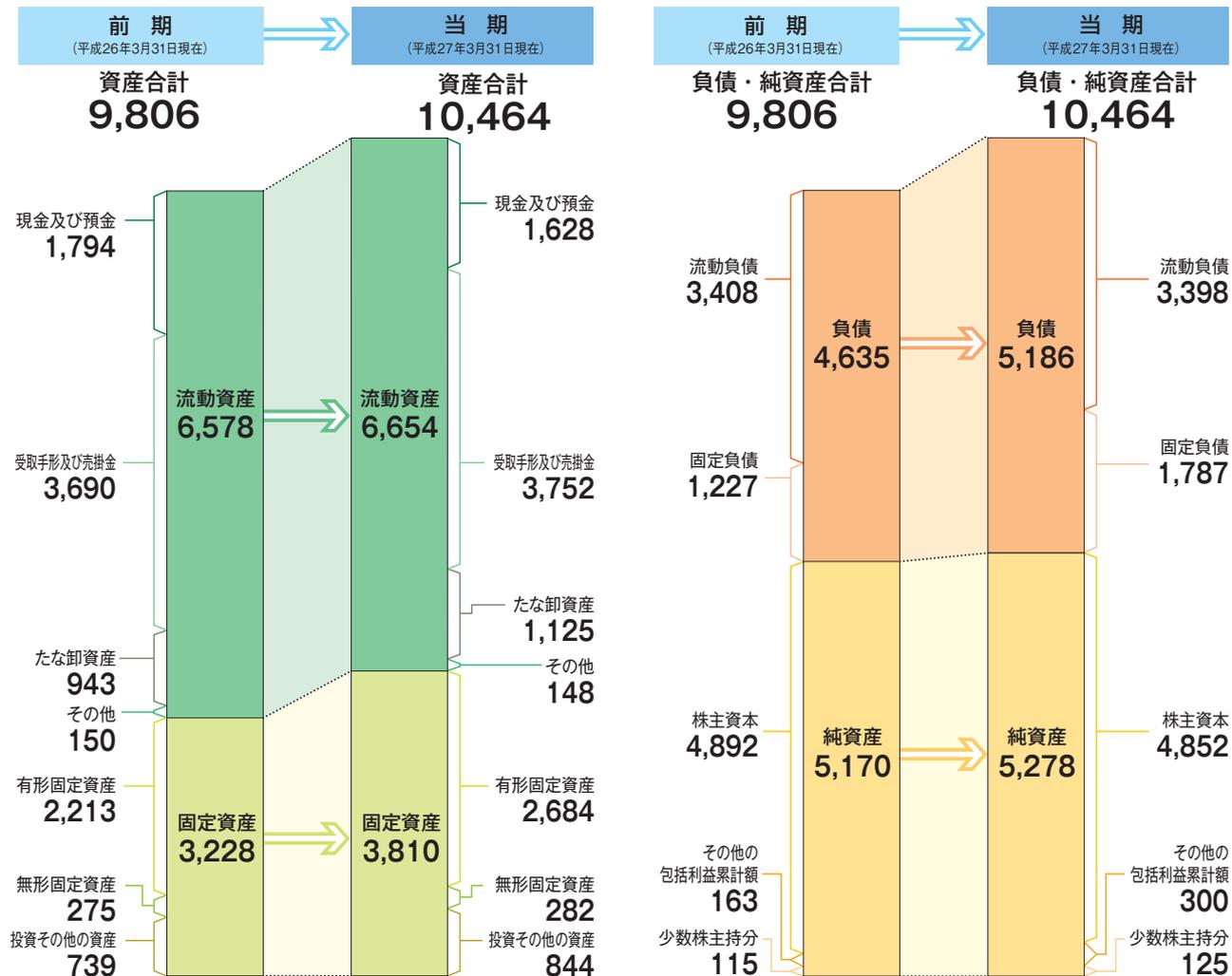
- 廃プラスチックのリサイクル
- リサイクル樹脂ペレットの生産・販売
- プラスチックのコンパウンド受託加工
- 樹脂パウダーの生産



樹脂ペレット

連結決算概要

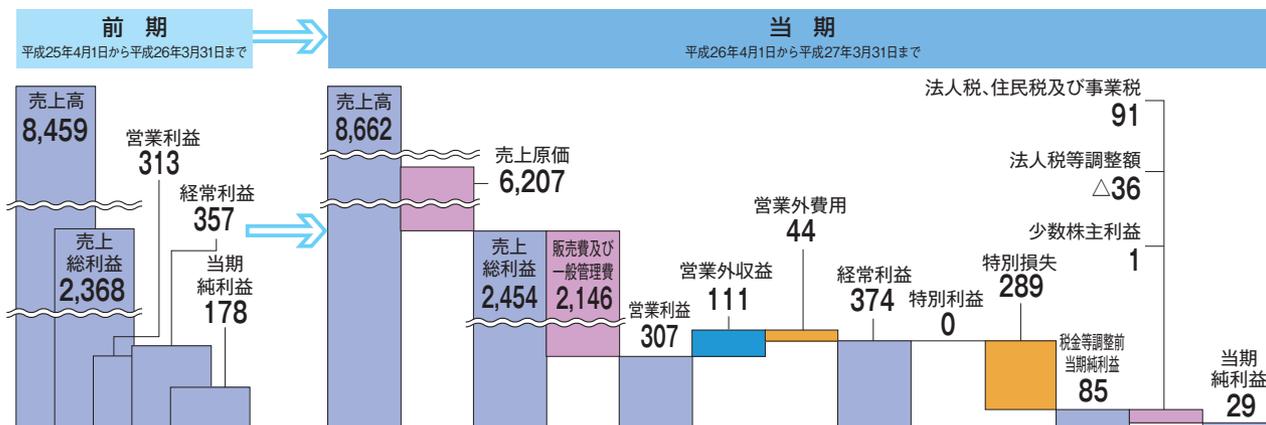
連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)



POINT

総資産は、現金及び預金が減少したものの、たな卸資産および春日井工場建設に伴う建物の増加など有形固定資産が増加したことなどにより前期末比657百万円増加し、負債は、未払法人税等および短期借入金など流動負債が減少したものの、長期借入金や厚生年金基金解散損失引当金など固定負債が増加したことにより前期末比550百万円の増加となりました。なお、純資産は、利益剰余金が減少したものの為替換算調整勘定の増加などにより107百万円増加しました。

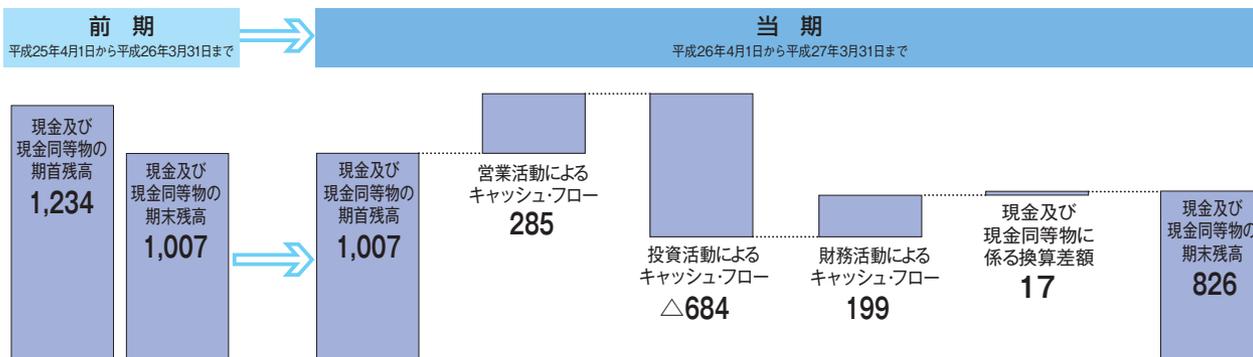
連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



POINT

当期は、新技術開発など売上の拡大に向け、新たな事業基盤の構築に積極的に取り組みました。売上高は、特にセンサ類が堅調だったことにより、2.4%増収となりました。利益面では、販売費及び一般管理費が増加したことにより営業利益は減益となりましたが、助成金収入が増加したことにより経常利益は増益となりました。当期純利益は、特別損失に厚生年金基金解散損失引当金繰入額を計上したことなどにより減益となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)



POINT

当期の現金及び現金同等物は、前期末に比べ181百万円減少し826百万円となりました。営業活動の結果得られた資金は、厚生年金基金解散損失引当金繰入額やたな卸資産の増加などにより285百万円となりました。投資活動の結果使用した資金は、有形固定資産の取得による支出などにより684百万円となりました。財務活動の結果使用した資金は、長期借入金による収入などにより199百万円となりました。

社員インタビュー

お客様の要望を 吸い上げられる力を



機器事業部製造部技術課

佐藤 大輔

平成19年の入社から今年で9年目。エンジニアリング事業部で制御盤のPLCソフト（あらかじめ定められた順序または手続きで機器の制御を行う仕組み。シーケンス制御とも呼ばれる）の設計に携わってきました。平成24年には機器事業部に異動となり、電力調整器パラコンの開発・設計を担当するようになりました。現在はメガソーラー向けに発電量が一目で分かる表示機器も担当しています。

学生時代の専攻は電子工学です。PLCは当社に入社して初めて体験した技術ですが、新しい技術に挑み、習得する機会があるのは技術者としてうれしいことです。

社会人になって変わったことは、時間を守ることの大切さを知り、責任感に目覚めたこと。決められた工期の中で、求められる性能を出すことの難しさを痛感しています。

仕事の多くは、お客様の現場で最終調整するものがほとんどですが、最初の頃は思った性能がなかなか出ず、時間ばかりが経過しました。お客様の担当者に深夜までつきあってもらうわけですから、ヒヤヒヤものです。ただ、



そんな現場でも「こんなこともできるようになれば……」という提案を受け、その場で実現して喜ばれたことも幾度となくあります。現場での作業は、お客様のナマの声が聞け、自分自身が視野を広げる上で欠かせないものとなっています。

25歳で家庭を持ち、現在は5歳と3歳の2人の男の子の父親。今、家族ぐるみではまっているのが『妖怪ウォッチ』のゲームです。親と子という垣根を越え、家族であることの喜びをかみしめる瞬間です。学生時代の趣味はバスケットボール。今はバスケットボールをする機会はなく、テレビでNBA（北米のプロバスケットボールリーグ）のスーパースターたちのプレーを観戦するのが楽しみです。

トピックス

第76期のトピックスをご紹介します。

本社・春日井工場の正門と駐車場が完成



本社・春日井工場本館の新社屋が昨年完成したのに続き、このほど正門と駐車場も完成しました。これまでご不便をおかけし誠に申し訳ありませんでした。

工場正門（写真左）と
工場駐車場・緑地（写真右）

会社概要/株式状況

(平成27年3月31日現在)

▶ 会社の概況

商号 東洋電機株式会社
 設立 1947年(昭和22年)7月
 資本金 10億3,708万円
 本社・春日井工場 〒486-8585
 愛知県春日井市味美町2-156
 神屋工場 〒480-0393
 愛知県春日井市神屋町字引沢1-39
 営業所 東京、名古屋、大阪
 関係会社 東洋樹脂株式会社 (愛知県小牧市)
 東洋電機ファシリティサービス株式会社
 (愛知県春日井市)
 東洋板金製造株式会社 (愛知県春日井市)
 南京華洋電気有限公司
 (中華人民共和国江蘇省南京市)
 Thai Toyo Electric Co., Ltd.
 (タイ王国チョンブリ県)
 主要取引銀行 百五銀行、商工中金、三井住友銀行、
 名古屋銀行
 従業員数 223名(連結523名)

▶ 役員 (平成27年6月24日現在)

代表取締役会長 松尾隆徳
 代表取締役社長 松尾昇光
 常務取締役 松村和成
 取締役 丹羽基泰 経営企画本部長
 取締役 加藤信 管理本部長
 取締役 清水純一 海外事業本部長
 取締役 加藤茂男 エンジニアリング事業部長
 取締役 堀睦英 機器事業部長
 取締役 奥村光宏 海外事業本部海外営業部長
 取締役(監査等委員) 森正一
 取締役(監査等委員) 有賀重介
 取締役(監査等委員) 葛谷昌浩

(注)取締役有賀重介および葛谷昌浩の各氏は、社外取締役であります。

▶ 株式の状況

発行可能株式総数 18,000,000株(普通株式)
 発行済株式の総数 9,388,950株
 (自己株式 776,274株を含む)
 株主数 591名

▶ 大株主

株主名	持株数	持株比率
有限会社城西	855千株	9.92%
東洋電機従業員持株会	647千株	7.52%
東洋電機取引先持株会	534千株	6.20%
株式会社商工組合中央金庫	465千株	5.39%
株式会社百五銀行	428千株	4.96%
松尾隆徳	364千株	4.22%
松尾昇光	308千株	3.57%
トーヨーテクノ株式会社	289千株	3.36%
第一生命保険株式会社	250千株	2.90%
日本生命保険相互会社	250千株	2.90%

(注)持株比率については、自己株式(776,274株)を控除して算出しております。

▶ 株式分布状況

